

# 取組主体：株式会社九神ファームめむろ

## 基礎情報

【所在市町村】芽室町

【経営面積】3ヘクタール

【作付品目】ジャガイモ、カボチャ、小豆

【従業員】18名

## 1 取組の経緯等

- 障がい者就労率が低いという課題を有していた芽室町は、「就労継続支援A型事業所」の開設を目指し、障がい者雇用に先駆的に取り組む企業の誘致に取り組む中で、障がい者の就労支援のコンサルティングを行う株式会社ダックス四国（高知県）に相談したところ、平成24（2012）年7月、十勝ブランドの農作物の生産、加工を通じた障がい者就労のビジネスモデルを提案される。
- これを受け、芽室町は同年12月、多角的に複数の団体や個人が協力連携する就労参画プロジェクト「プロジェクトめむろ」を立案するとともに、道外企業4社の出資を得て同町初の就労継続支援A型事業所となる「株式会社九神ファームめむろ」を設立。平成25（2013）年4月より操業を開始し、障がい者による農作業及び加工作業を実施。

## 2 取組内容

- 同社は、事業者と障がい者が雇用契約を結び、最低賃金を保障する障がい者自立支援法に基づく就労継続支援A型事業所。ハローワークを通じて知的障がい、精神障がい（発達障がい）者を中心に13名を就労継続支援A型事業として通年雇用。また、正社員として、身体障がい者2名を通年雇用。
- 勤務は週5日、毎日6時間半の勤務形態を採用し、シフト制をとっている。障がい者の通院については、前もって申し出ておけば、有給休暇を使わなくても大丈夫なように配慮。
- 通勤については、地域に公共交通機関がなく通勤が困難なため、自社保有のバスにより障がい者を送迎。
- 障がい者は、農業経験のある地域の高齢者（職業指導員）の指導を受けながら、農地約3haでジャガイモ、カボチャ、小豆の一連の農作業（草取り、定植、マルチ掛け、種まき、施肥、選別、収穫など）に従事。
- また、同社の加工作業場において、農場で収穫したジャガイモの皮むきとカット、真空パック包装などの1次処理加工を実施。
- 障がい者は農業に従事したことにより、性格が明るくなる、コミュニケーションが図れるようになる、仕事に対する責任感が芽



▲ジャガイモ収穫作業の様子の様子

生えるなどの変化が顕著。

### 3 取組のポイント等

- 芽室町は、休所中の保育所を作業所として使用できるよう提供するなどして便宜を図り、種の入手などに関しても芽室町農業協同組合の支援を得るなどの仲立ちを積極的に実施。また、新しい加工場の新設に対し、土地の無償貸し付けをするなど支援。
- 出資企業は、九神ファームめむろが生産、加工した農作物を100%購入し、展開している家庭向け惣菜のフランチャイズ店舗で「ポテトサラダ」や「コロッケ」の原料として使用。これにより九神ファームめむろは収益を安定化することができ、障がい者の安定的かつ継続的な雇用を実現。一方、出資企業にとっては、商社から仕入れるよりもコストを下げた形で、なおかつ十勝ブランドを活かしたビジネスとして成立しているとともに、障がい者雇用率の増加を図り、企業価値を高めることにも寄与。
- 地域の高齢者から農業の指導を受けることで、高齢者の雇用創出や生きがい創出にも寄与。
- 芽室町、障がい者、出資企業、芽室町農業協同組合、地域住民など、関係する各々が提供すべき資源や労力、それにより享受できるメリットを明確にし協働することで、円滑な取組を実施。
- 障がい者の就労支援や農業のノウハウを活用し、全国から特別支援学校の修学旅行生を受け入れ、地域の宿舎と連携し、宿泊しながら農作業体験や加工体験を行う観光事業の取組を実施。



▲加工作業の様子

### 4 障害者就労に関する展望、課題

- 家庭との連携はかなり密にとっているが、障がい者が働いて生きていくためには生活支援がやはり必要であるため、今後、企業だからこそできる生活支援を実施する予定。
- 平成27(2015)年1月末に新たな加工場が完成。事業を拡大しゴボウやナガイモといった新たな農作物加工に取り組み、これにより、同年4月から障がい者雇用を20人体制にしたい考え。
- 就労継続支援A型事業としての雇用はゴールではなく一般企業で就労するためのスタートであり、一般就労にステップアップしてもらい、新たに障がい者を雇用していくような好循環をいかに作り出せるかが課題。
- 十勝エリアは大規模農家が多く、遊休農地がほとんど皆無のため、規模拡大が困難。

(この事例の問い合わせ先)  
株式会社九神ファームめむろ  
電話 0155-65-2280  
<http://kyujinfarm-memuro.co.jp/>  
調査時期 平成27年1月